

国立市議会議長 青木 健 様

国立駅南口駅前広場ならびに旧国立駅舎の市民活用上の問題解決に関する陳情

陳情の趣旨

国立市は現在、「国立駅周辺まちづくり」の政策のもと、令和 8 年度のリニューアルオープンに向けて、「国立駅南口駅前広場（旧国立駅舎東西広場および円形公園）」の整備事業に取り組んでいる。また、すでに令和 2 年度より、まちの魅力発信拠点「旧国立駅舎」の運営を行っている。

この 2 つの公共空間ならびに公共施設については、いずれも市民の活動の場として活用されることが想定されている。まず、国立駅南口駅前広場については、「旧国立駅舎東西広場・円形公園整備基本方針」において、3 つの整備目標のうちの 1 つとして「いろいろな活動のできる広場に」との目標が掲げられ、その説明として「誰もが安心して使え、いざというときに頼りになる場所でありながら、多様な活動が生まれ、市民の思いに対応できる広場を目指します。」と謳われている。次に、旧国立駅舎については、広間・展示室・屋外スペースの 3 箇所をイベントスペースとして市民が使用するしくみ（事前相談や使用申請の手続き）が用意されている。

しかし、国立駅南口駅前広場ならびに旧国立駅舎を実際に市民や小規模の団体がイベント等の活動で活用しようとした場合、大きな問題に直面する。それが「備品調達・運搬の問題」である。

ここでいう「備品」とは、イベント・ステージ・展示等で使用する什器や機材のことを指す。具体的には、出店用テント、長机、折り畳みイス、ポータブルステージ（舞台）、音響装置、展示パネルスタンド等である。これらは物量・サイズ・価格といった理由で、一般に市民や小規模の団体が自ら所有・保管することのないものであり、かつ、催事では必要となるものである。公民館や公共ホールでは専用の保管庫があり、無償又は有償で備品を借りることができるが、当該の

国立駅南口駅前広場ならびに旧国立駅舎にはその用意がない（正確には、旧国立駅舎については施設内に一部の備品を保管して貸出を行っているが、もとより収容能力が低く、必要量の備品を置くことができないため、外部からの持ち込みに頼らざるを得ない）。

結果として、備品はイベント等の主催者が自前で調達しなければならず、それが可能な団体や事業者が存在する一方で、コストの負担が難しい市民や小規模の団体は国立駅南口駅前広場ならびに旧国立駅舎を活用するハードルが高い状況となっている。活用したくとも活用できない、いわば「調達弱者」が潜在しているのだが、ふだん駅前広場や旧国立駅舎で（調達可能な団体や事業者による）イベント等が恙なく行われていることで、その姿は見えづらいものとなっている。

さらに、調達の困難に加えて、たとえ調達できた場合であっても、備品を他所から車や人手を費やして運び込む苦勞が生じる。物量的に小型の自家用車では間に合わず、ワゴンや中大型車をレンタル・手配することになれば、備品の調達コストのみならず運搬コストも重い負担となる。

以上が、国立駅南口駅前広場ならびに旧国立駅舎の市民活用上の問題＝「備品調達・運搬の問題」である。

国立市は「国立市人権を尊重し多様性を認め合う平和なまちづくり基本条例」において「ソーシャル・インクルージョン」を理念に掲げている。その理念に基づき、コストの負担が難しい市民や小規模の団体であっても国立駅南口駅前広場ならびに旧国立駅舎を活用できるよう、今後の「国立駅周辺まちづくり」の政策において「備品調達・運搬の問題」を解決していただきたい。

具体的な方策としては、国立駅南口駅前広場のリニューアル整備の際、備品を保管する倉庫を近辺に設置することで「備品調達・運搬の問題」を一挙に解決する、といったアイデアが考えられる。一つの例示であり、別途秀逸なアイデアがあれば、そちらの方策を採っていただきたい。

陳情事項

国立市は「国立市人権を尊重し多様性を認め合う平和なまちづくり基本条例」において「ソーシャル・インクルージョン」を理念に掲げている。その理念に基づき、コストの負担が難しい市民や小規模の団体であっても国立駅南口駅前広場ならびに旧国立駅舎を活用できるよう、今後の「国立駅周辺まちづくり」の政策において「備品調達・運搬の問題」を解決していただきたい。